

平成28年度 関東同窓会総会・懇親会

日比谷が静岡になった夜
ああ故郷の春いかに！静岡・静岡高
関東同窓会
会報

静岡・静岡高関東同窓会
会報 第82号
平成28年12月15日発行
編集人 八牧浩行
(82期)



高印

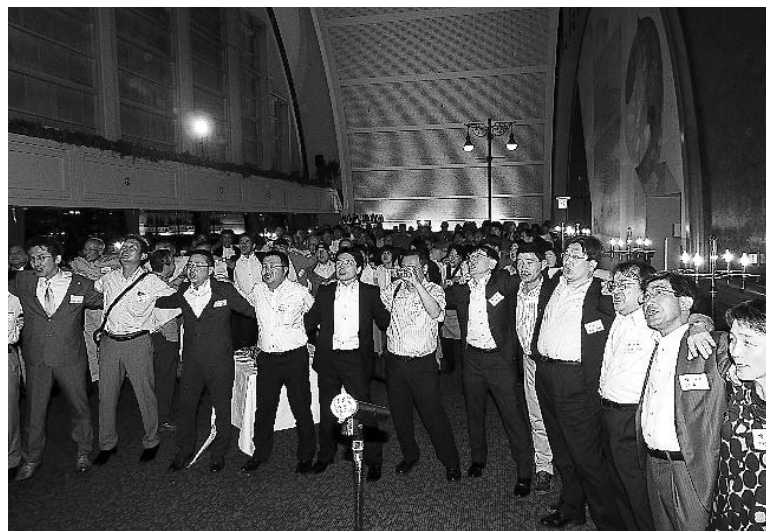
目次

- 1～4頁 総会・懇親会・講演あれこれ
4頁 3年目の岩手ツアー 多くを学ぶ
5頁～6頁 特集「古書コミ」本が繋ぐ同窓生の絆
一冊から始めよう 古書コミが繋ぐ縁
7頁 へたかが同窓会…「本」この厄介なもの
8頁 旅の終わりの高校同窓会
9頁 私の夢―ブラジル移民60年、64期同窓会
10頁 〈お知らせ〉異業種交流会、各期幹事会など

「静岡のまちづくりに私たちができること」を
テーマに二三〇人の岳南健児が集結

94期 木村純子

静岡・静岡高関東同窓会の二〇一六年総会・懇親会が、七月八日（金）、東京日比谷の日本プレスセンターで開催されました。ご来賓に五名の方々、静岡高等学校副校長 中村元彦様、本部同窓会副会長 角替弘志様、志田洪顯様、中部支部長 加藤政幸様、本部同窓会事務局 佐藤秀野様をお迎えし、二十代から九十代までの同窓生、二三〇名が一堂に集まった賑やかな会となりました。



今年のテーマは「しずおか」と決めて、静岡のまちづくりについて、行政サイドから国交省の佐々木晶二氏（94期）と静岡、茶町のまちおこしに取り組む前田富佐男氏（94期）によるリレー講演を行い、これに関連して、茶町ブレンドのお茶の試飲を実施。懇親会では静岡の味覚、黒はんぺんのフライや桜えび・生しらす、焼酎と緑茶で「静岡割り」を味わっていただきました。会場のスクリーンには、



黒はんぺんのフライは大人気！



茶の町まっぷを広げて講演に聞き入る

大きく静岡各地の風景や産品のスライドが映し出され、日比谷が静岡になったのでした。
最新の統計によると、我が静岡市の人口は、二〇ある政令指定都市中で最下位の七〇・五万人に減少。この十年での減少数は全国市町村中でワースト？の危機的状況ということを知って、これは大変！と思ったのがきっかけで、今回の企画がスタートしました。そもそも、我々のように地元を離れてしまい、戻らない人が多いことが人口減の一番の原因ではありますが、それでも何かできないだろうか。現在の静岡を知り、未来の静岡のためにできることは何か、を考えてみようと思ったのです。
この郷土愛に訴えたテーマに、皆さんが強い関心を寄せてくださったからか、はたまた懐かしい静岡の味覚に、つられたからかは、



三種類のお茶を試飲していただきました



静岡から駆け付けた野球部後援会のみなさん



総会風景



大活躍の茶娘さんたち



久々の再会に話がはずみます



新役員が拍手で承認されました



試飲コーナーは大盛況でした



同期で集まって賑やかに

定かではありませんが、当日は大勢の方々にご来場いただくことができました。会場では、お茶の試飲コーナーにたくさんの方のおいでになり、講演の内容を思い起こしながら、その味や香りを確かめるように飲んでいただきました。また、用意した静岡の味覚はあつという間になくなってしまったという人気ぶりで、静岡を想いながらの歓談を楽しんでいただけたことかと思えます。

今回の総会

では、役員改選が行われ、多賀谷秀保会長（82期）の再任と新しい役員が承認されました。引き続き、「居心地のいい同窓会」を作っていくために、

異業種交流会、卒業一五年目の会、女子会などの企画の実施、ホームページやSNSを使ってのネットワークづくりなどの事業計画や予

算も承認され、一層充実した同窓会の運営が期待されます。

続いて行われた懇親会では、最年長の57期 岩井先輩による乾杯のご挨拶のあと、静岡の味覚やレストランアラスカのおいしい料理をいただきながらの賑やかな歓談の時間となりました。会場のあちこちで、同期が集まって旧交を温めたり、学年に関係なく挨拶を交わしたりする姿が見られました。なかには六〇歳以上も離れた、最年長と最年少が交流する場面もあり、伝統ある静岡・静岡高の同窓会ならではの「コマ」も。また、静岡からかけつけた、野球部後援会からは、母校野球部の活動の報告や、応援の要請とともに、グッズの販売もありました。このところの野球部の活躍で、同窓会に一層の活気がもたらされているのを見ると、関東からも熱い応援で応えたいものと思いました。

最後には、応援団の指揮のもと、校歌、希望の歌。締めめの追遥歌では、二〇三〇人ががっちりスクラムを組んで、母校や故郷への熱い想いを胸に高唱し、お開きとなりました。今回の企画を通して、少しでも現在の故郷静岡のことを知っていただき、それぞれのお立場で何かできることはないかと思っていただけましたら幸いです。まずは、何

か一つ始めてみませんか？

最年長と最年少の歓談風景
年の差は66歳！

会場スクリーンに静岡の様々な風景が

〈関連の連絡先など〉

①しずおか・茶の町コンシェル事務局（茶町KINZABURO）
電話〇五四―二五二―四七六
②静岡市の取り組みについて、ホームページから見る事ができます

検索キーワードは
「静岡市のいいねえ届け隊」
「お茶のまち静岡市」

講演要旨

「静岡茶」で

静岡のまちづくりを立ち上げる

しずおか・茶の町コンシェル会長

前田 富佐男氏（94期）

私は静岡茶町生まれ、茶問屋の三代目として稼業を継ぐ事となりました。今から6年前にこの問屋の事務所を改造し、お茶とお菓子を製造販売する小売店「茶町KINZABURO」を立ち上げました。このお店は、地域や同業種・異業種との連携を模索する「種」でもありました。ここから生まれたのが、お茶に関連する資源によってこの地域の観光による活性化を目指す組織「しずおか・茶の町コンシェル」です。近代の茶業界の歴史は大きなうねりの中にあります。明治時代から生産のほとんどが「紅茶」などとして輸出



に廻った日本茶は、戦後、日本人好みで旨味重視の「煎茶」として生まれ変わり、戦後60年に亘り国内の大ヒット商品となるのですが、ここに来て、他のドリンクに比べ、多様性に欠けた事で凋落の一途を辿る結果となりました。そこで、この苦境を打開するために、私は問屋業から直接消費者に向き合えるテナントを開店したのです。私のお店のある茶町は、掛川や川根のような「茶産地」問屋街と違い、県内外のお茶の集積地です。香りの良い「山の茶」と味の濃い「里の茶」が集まる場所です。従って、それぞれの「味」と「香り」という特性を活かした「お茶のブレンド技術」という企業文化により、産地問屋との差別化が計られ、全国に茶を流通させている町なのです。このこだわりが観光の大きなポイントになると思っています。そして二点目。静岡県立大学のマーケティング学・岩崎教授の消費者への質問「急須で淹れるお茶と言えば〇〇」……〇〇に入る

る言葉を問われた消費者の多くが「やすらぎ」「くつろぎ」「リラックス」などと答えたのに対し、茶業者は「茶葉・リーフ・静岡茶」などと答えたのでした。消費者の中で「茶葉」などと答えたのは、八〇〇人中たったの2人でした。この事は、物が溢れる時代の消費者が「茶葉」などの「物」ではなく、お茶によって得られるサービスや、時間、空間、会話、楽しさ、などの「事」を求めているという事実を物語っています。物ではなく事を、いかに提案・演出出来るかが今後の力ぎだという事なのです。そこで私のテナントでは、お菓子は自家製、お茶は無料で10種類以上ご用意し飲み放題できるやすらぎの空間を店内に用意しました。この事で多くのお客様が茶町に足を運ぶきっかけになったと自負しております。「茶の町の観光」という機運が高まり、茶市場に見学ツアーが出来たり、銀行やメディアも動き始め、当店にも県外客が増え



るようになりました。そんな中、地域の有志茶業者及び、異業種が集い、出来たのが「しずおか・茶の町コンシェル」でした。先進地を視察し、アイデアを蓄え、大学生にも「茶の町モニターツアー」に参加してもらいました。そこで、お茶の町の「茶の香り」を始め、多くの観光資源がここにある事に気づかれました。これを元に「茶の町マップ」を作り、お客様に町歩きをしていただく観光がスタートしたのです。更に、「今立ち上ろう茶町界限」というパネルディスカッションの開催をきっかけに、行政やメディアにも我々の活動が徐々に浸透していき、旅行会社

静岡のまちづくりのために

私たちができること

国土交通省国土交通政策研究所長

佐々木 晶二氏（94期）



私は、昭和57年に建設省に入省以来、都市計画やまちづくりを仕事にしてきました。その経験を地元静岡のまちづくりにいかしたいという気持ちで今日は皆さんにお話をしたいと思います。現在の静岡は、政令指定都市の中で最も人口減少が激しく、また、商業地の地価も大幅に下落しているなど、地域経済は苦しい状況にあります。しかし、

仙台や福岡など、ブロック中心城市のように国際拠点都市を目指さずとも、地域自立的な都市として今後も発展する可能性は十分静岡は秘めています。

その強みは、静岡のまちの魅力です。例えば、全国の都市の魅力进行分析している、島原万丈他著『本当に住んで幸せな街』（光文社新書）では、静岡は「食文化」「街を感じる」「ロマンスがある」「歩ける」などの点で、競争相手の浜松よりもダントツに高い評価を受けています。

この静岡のまちの魅力を生かしていくためには、高度成長期のような大規模な再開発よりも、既存の街並みや建物を活かしつつ、小規模な事業を連続的に興していくことに重点を移していくことが大切です。その際には、地元企業が中心になって、事業収益をあげつつ、まちの価値、エリアの価値をあげていくとい



う、社会貢献的な企業の取り組みが決め手となります。

同期の前田富佐男さんの取り組みは、まさに、この静岡の強みをいかしながら社会貢献を同時に行う、これからのまちづくりの王道をいく非常に貴重な取り組みです。

私は、前田くんが始めたこのような地元の先駆的な取り組みを、地域的にも広がりのある、そして、継続的に発展していくために、関東から支援できることを提案しようと思います。

具体的に、前田くんのような社会貢献型のビジネスが静岡でもっと発展していくために私は、二つの私たちができることを提案します。一つは「専門的人材」、もう一つは「ファイナンス」です。

静岡のまちづくりに必要な「専門的な人材」とは、自らリスクをとって事業主体となれる起業家、事業収支を確認して金融機関との調整ができる金融のプロ、法人格の取得等法律のプロ、建築や土地利用の規制緩和を実現できる建築家などです。

このような専門的な人材は私たち関東同窓会の中にたくさんいます。この関東同窓会のネットワークを生かして、まず、静岡のまちづくりの支援チームをつくりませんか。私たちも無償ボランティアでは持続しませんから、私が、国から専門家派遣の

旅費などを負担する予算をみつけてくることもできます。

もう一つの大事な要素は「ファイナンス」についてです。これは具体的には、事業の立ち上げ時の出資や事業継続のための融資です。

前田くんのような既存の建物を利用した事業は、再開発事業のように何百億円もかかる事業ではなく、最初は数百万円、数千万円の事業資金で始める事業です。このような小規模のファイナンスについては、都市銀行や地方銀行では十分に対応できないことも想定されます。しかし、小規模だからこそ、現在のような経済情勢が不透明な時にはきちんと採算のとれる事業になりやすいのです。経営でよくいわれる「リーンスタートアップ」です。

このような事業に対応して、柔軟かつ迅速に資金ニーズに応えるため、あらかじめ、国と地元の金融機関の出資で「まちづくりファンド」をつくることもできます。こういうファンドに我々同窓会個人の篤志を集めてもいいと思います。

このような取り組みを皆さんと一緒に始めてみませんか。まずは、静岡のまちづくりの支援準備チームをつくりましょう。

「静岡OB・OGのプロフェッショナル来たれ」

三年目の岩手ツアー

現地と交流、多くを学ぶ

「恒例」になりつつある静岡関東同窓会の有志による岩手・三陸の被災地訪問ツアーを、八月二〇～二一日に開催した。二〇一四年に始まり今年は三回目。

初年に三陸海岸の北部、二〇一五年に南部を回ったのに対し、今年は釜石市と大槌町で地元の方々との交流やちょっとしたボランティア活動を行う機会を得た。

震災から五年以上を経て、現地では復興工事が進む一方、今後の街づくりなど課題ものしか

かる。昨年から少し変わった風景を見ながら、今年も多くのことを経験し、学んだ。

ツアーは、岩手で震災復興の支援活動が続ける「Save Iwate」代表の寺井良夫さん（92期、二〇一四年の関東同窓会の総会で講演）の尽力で実現した。八七期と九二期の十人が参加した。

初日に訪れたのが釜石市の鶴住居地区。震災の日、多数の小中学生が機転を利かせ避難予定地より高い場所まで移動し津波の難を逃れた「釜石の奇跡」の地として知られる一方、多くの高齢者らが本来避難場所でない地区防災センターにとどまり亡くなった「釜石の悲劇」の場所でもある。

この地は昨年訪れたが、盛土かさ上げ工事が進み、新しい道路の整備が進展していた。鶴住居は二〇一九年のラグビー・ワールドカップの会場の一つになっており、競技場建設に備えた工事動き出していた。しかし、新造成地の多くはまだ住宅も建たず、コンクリートむき出しの景色だった。

カラオケ、虎舞、石運び
寺井さんらのアレンジで、地



釜石市・鶴住居で地元の人々と交流。虎舞も楽しんだ。

区会館で地元の方々と宴を共にする機会に恵まれた。酒を交わすうちに硬さもほぐれ、カラオケで遠慮することなく熱唱(絶叫?)。鶴住居伝統の虎舞の真似事もさせてもらった。住民の方々は震災で親族や知人を失った方も多いに違いない。しかし皆明るく振舞っておられ、むしろ我々が元気をいただいた。

元々外に向かって話すより寡黙に実行する人が多い土地柄という。しかし震災後は、地元の情報発信の重要性も共有するようになったという。

夜は大槌町の「三陸花ホテルはまぎく」に宿泊。遅くまで飲み交し、旧交を温めた。

翌日は大槌町で、地元の人々の集いの場にもなっているベル



宿泊した大槌町の「花ホテルはまぎく」で。

ガーディア鯨山という場所を訪れた。元々釜石から大槌に移住した佐々木格さんが、個人の住居およびガーデンとして整備した。震災後、海を見下ろす庭園に「風の電話」と名付けた電話ボックス(電話線はつながっていない)を設置し、亡くなった方と静かに話ができる場として話題になった。また「森の図書館」という小さな私設図書館を設け、地元の子供らに開放した。いまではコミュニティの重要な拠点だ。

ちょうど庭の整備を行っていた。一行は石運びやまき割りなどを手伝い、良い汗をかいだ。

後日談

ツアーの思い出の整理も済まない八月末、岩泉町などを台風一〇号が襲い、多大な被害が出

た。胸が痛んだ。東京に出張中の寺井さんは急遽岩手に戻り、その後約二カ月間、岩泉で支援活動に携わった。

九月下旬、天皇・皇后両陛下が岩手県を訪問された際に、「三陸花ホテルはまぎく」に宿泊された。両陛下は一九九七年にも同ホテルを訪問されている。当時の社長から贈られたハマギクの種は、その後皇居で育てられ現在に至る。震災・津波でホテルは甚大な被害を受け、種を贈った社長は亡くなった。両陛下再訪の報を聞き、感に入るところがあった。

一〇月下旬、釜石市は民泊システムの米エアビーアンドビーと観光促進で覚書を交わした。ラグビー・ワールドカップをにらんだ動きだ。ツアー中にも



▲大槌町のベルガーディアではまき割りや石運びを少し手伝った。
▲花巻から釜石に向かう途上、同窓のユニフォーム姿でSL銀河を撮影

「二〇一九年には鶴住居でラグビーを観よう」という話が出たばかり。ラグビーだけでなく、

未来志向の動きや明るい話題を共有できれば素晴らしい。
(八七期、九二期有志)

特集 『古書コミ』

本が繋ぐ同窓生の絆

77期 栗田 収司



今年7月8日の「静中・静高関東同窓会」総会の受付の一角で、「古書コミのご本はこちらですよ!」と叫んでいた初老の同窓生の姿を覚えていますか?それが私です。

理事の一人としてささやかながらも同窓会のお役に立ちたいと思い、山下雅子副会長の下で「古書コミ」(古書コミュニケーション)委員会の担当を仰せつ

かっております。「古書コミ」はお持ちいただいた本を媒体に同窓生同士の絆を高めようという崇高な目的で始めたものです。

他の会員が持ち寄った本と交換してお読みいただくこと、交換せずに集まった本は業者に換金してもらい、現役学生の支援に役立てることが主目的です。

今年の関東同窓会総会では多くの同窓生のご協力をいただいで、70余冊の貴重なご本をお持ち

いただきました。

10冊余りの本をお持ちいただいた先輩、ご自分が書かれた著書をお持ちいただいた同窓生、読んでみたが当てが外れたのか、かなり新しい本をお持ちいただいた方など様々でしたが、同窓会の会合を重ねるたびに「古書コミ」の趣旨をご理解いただいた方が増えていることが良く分かりました。

「古書コミ」という聞きなれない言葉に戸惑いながら同窓諸氏のご本をお預かりしましたが、一般的にはどんな「古書コミ」活動をしているのかを知りたくて、パソコンで「古書コミ」と検索してみました。

その「古書コミ」の上位に、『古書コミ(古書コミュニケーション)』、本を媒体として同窓会を活性」というお目当てのタイトルを見付け、ぜひ参考にしようと思ってみました。

しかし、これがなんと!我が「静中・静高関東同窓会」会報の記事でした。

我々と同じ思いを持って活動



している人たちの状況に学ぼうとした思惑は外れましたが、この試みを提唱した山下副会長、「同窓会会報」八牧編集長やホームページ委員会の理事さんのご苦勞の賜と感激した次第です。皆様には是非「古書コミ」を検索していただき、この活動の趣旨をご理解の上、今後ますますのご協力をいただけますようお願いいたします。

一冊から始めよう 古書コミ!!

90期 山下 雅子

『重いので、タクシーに乗って会場にきました!』と、懇親会会場にて、声をかけていただき

きました。熱い思いも伝わってきました。

7月8日の同窓会総会には、今年も多くの本を持参いただきました。本場にありがとうございませう。今回まで計5回 古書

コミ活動を行いました。その都度、会報でお知らせ済みですが、今までの歩みをまとめて表にして、ご報告いたします。単に売り上げて寄付するだけではなく、本は読まれて生かされるもの!

まずは1冊の読み終えた本のリレーに参加

年 度	同窓会総会 (7月)	幹事会 (2月)	総 計	古書コミから 静高図書館へ寄贈
2014年度	第1回 1,384円	第2回 2,572円	3,956円	2015年4月 4000円分 図書カード
2015年度	第3回 3,855円	第4回 2,892円	6,747円	2016年7月 6500円分 図書カード
2016年度	第5回 6,033円			

2015年4月 図書券4,000円寄贈

第61回全国読書感想文コンクール課題図書

『わたしはマララ』

教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女』

マララ・ユスフザイ著 クリスティーナ・ラム著

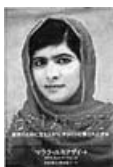
学研パブリッシング 1,600円(税別)

『ペンギンが教えてくれた物理のななし』

渡辺 佑基著 河出書房新社 1,400円(税別)

『希望の海へ』

マイケル・モーバーゴ作 評論社 1,680円(税別)



2016年7月 図書券6,500円寄贈

2016年度「青少年読書感想文コンクール」課題図書

『タスキメシ』 額賀 澤著 小学館 1,300円

『ハーレムの闘う本屋』 ルイス・ミシヨの生涯』

ヴォーンダ・ネルソン著 あすなろ書房 1,800円

『シンドラーに救われた少年』

レオン・レイソン著 河出書房新社 1,650円

その他

『高校生のための政治学 戦争のない平和な世界のつくり方』

杉山眞木著 東洋出版 1,500円



しませんか。同窓生をつなげる活動です。諸先輩にもお手伝いいただき、輪を広げております(参照 77期 栗田先輩エッセー)。今回、自分が読み終えて、提出したということもすっかり忘

れていた本。たまたま先輩が手にして読まれ、違う視点からの感想や実は知合いの書いた本だったというお話もいただきました。これぞ「古書コミ」と大いに感じたところです(参照 87期 石川先輩エッセー)。

古書コミが繋ぐ縁

87期 石川 嘉和

今年の関東同窓会総会の「古書コミ」でふと目にした「東京スリバチ地形入門」という本。もともと東京の変化に富んだ地形に興味のあった私は予定していたかのようにその本をゲットした。

その本はプラタモリ的な分野の、さらにマニアックでニッチな領域を、文字通りすり鉢のように掘り下げたフィールドワークの労作であって、一読してとても満たされた幸せな気分。この本を出品してくださった同窓生の方(90期の山下雅子さん)ありがとうございます。

この本に総会で遭遇しちよつと得した気分になってから一ヶ月くらい経った頃、一通のメールが大学の同級生からとどいた。そこには、大学の後輩が「すり

鉢学会」なるものをやっており、すり鉢地形探索の催しがあるのに参加を募る旨が書かれていた! 古書コミ出品の一冊が高校の同窓を繋ぎ、それがまた大学の同窓を繋いでいく。なんと! 不思議な連鎖! 「プチいい気分」を感じずにはられない瞬間だ。古書コミの効用はこんな形で現れることもあるんですね。

◆原稿・写真を募集します!

静中・静高関東同窓会の本会報(年2回11月、12月発行)とホームページ(随時更新)は、同窓生と関係者が老若男女問わず行き来する「情報広場」「ニュース交差点」です。関東での同期会等の開催、同窓生参加イベント、同窓生の活躍ぶり、エッセーなど、お気軽に投稿してください。ファイル添付で以下のメールアドレスにお送りいただければ幸いです。郵送の場合は左記関東同窓会宛にお願いします。

会報は

yamaki@recordchina.co.jp

(八牧)

ホームページは

ishikawa@yu-to.jp(石川)

静中・静高関東同窓会事務所

東京都千代田区神田鍛冶町

3-7-13 敷下ビル6F

野方法律事務所内

エッセー

たかが同窓会、

されど同窓会⑬

「本」この厄介なもの

71期 浦田 彰

そろそろ「終活」を、と心に期するところアリは、傘寿を迎えた私ばかりではないでしょう。老いて身辺の整理に手をつけることは、我が身だけでなく子や孫への義務だといえます

さて、終活として何から手をつけるか、私としては、終活の第一弾は溜りに溜まった本の処分です。我が物顔で居室の特等

席に陣取り、役目を終えて埃まみれなっている本の山。でも、しかし愛着があるんだな、終活し切れません。

この悩みの種を解決するには、簡単じゃないか、売ればいいのだ。街の古本屋さんに頼んで買ってもらえばいいのだ、オレの本をどこかの若い人が読む、知性の伝承だ、なんてカッコイイのいいことを夢想して近頃流行りのブックオフへ連絡したところ、さっそくトラックでやってきて、我が蔵書をアツという間に査定、そして文字通り目方で計る値の付け方、あまりの荒っぽいやり方に頭に来て、早々にお引き取り願ったという次第。後日、世智に聡い友人から「バカだな、お前。イマドキお前の持っているような本は何の価値もないんだよ。一足三文、目方で売るきやないんだよ」と諭されたというわけです。目方で身売りされた本は製紙工場へ直行、再び紙となって印刷所へ、新刊書となって書店へ、理想的なリサイクルと思えば、以って瞑すべきか！とはいえ、読み古した書物は目方で売るしかないのか、紙くずと同じなのか。その辺の事情



二十世紀店内の鈴木宏さん

をしつかり古本屋さんに訊いてみようとなつたのが同窓の鈴木宏さん(91期)が経営する「ブックカフェ 二十世紀」という店。本の街・神田神保町の真ん中です。一般の古書店とは一味違ってブックカフェという

に困っている方は連絡してください。神田古書店街で催される「古書市場」などで扱いを考えます。という若手経営者として古書業界を飛び回っている鈴さんの言葉でした。

店構え。お客さんは本を漁りながらコーヒーを注文したり、軽食を食べたり、のんびり本探しの時を過ごすという本好きにはコタエられない店です。店内は当たり前ですが上も下も右も左も本だらけ、「くらしの手帳」のバックナンバから「志ん生落語全集」、「鉄腕アトム」から「鈴木大拙講話」まで、手放した人の思いやこだわりの息ずかが立ち込めて明治・大正・昭和の世界にタイムスリップです。

秋の神宮野球場で行われた「第47回・明治神宮野球大会」に静高が東海地方代表で出場、東京代表の強豪・早稲田実業と対戦、惜しくも5：3で敗れたのですが、観戦した我が同期6名はこの「ブックカフェ 二十世紀」に集結して残念会。鈴木さんも加えて、敗因分析など岡目八目の野球談議に時を過ごしました。

30年前に店を始めたという鈴木さんは、古書の扱いについて、まず、昭和50年代に書籍に導入されたバーコードが問題で、バーコードの有無しによって扱いが違ふ、バーコードのない本は原則として流通市場に乗らない、価値のある専門書か、好事家が求める有名作家の初版本や奇観本以外は市場価値なしとして故紙とされる。一方バーコードのある本は、それぞれ市場価値が判断され古書市場で売買される。というわけなので、蔵書の処分

な。この活動を企画立案したのは副会長の山下雅子さん(90期)ですが、山下さんは個人的にも東日本大震災で被災した陸前高田市の図書館に、蔵書を換金したお金を届ける活動が続けているということ。蔵書の処分法には色々あるものです。「終活」も社会貢献ともなれば、おおいに気張れるのではないのでしょうか。

〈参考〉

「ブックカフェ 二十世紀」

鈴木宏さんが経営する古書店

03-3238-7415

「バリエーブルックス」

「古書コミ」での買取業者

0120-826-299

旅の終りの

高校同期会

75期 川面 忠男

豊橋から志摩の大王町波切(なきり)に行き、帰りは静岡で高校の同期会に出た旅だった。静岡駅前で背後から声をかけられた。声の主は平尾君、静岡銀行の役員を務められた方である。一緒に会場のホテル中島屋まで行った。

静高75期——旧制静岡中学から数えて75回目の卒業生という意味である。私は静岡市の小学校に3年生まで在籍し、その後は父の転勤に伴い静岡を離れたが、高校3年の春に再び静岡に。

「小学校の時に一緒だったのは？」と出席者の1人に尋ねられて「川合純夫と遠藤安彦の2人だけ」と応えた。3人は家も近くよく一緒に遊んだ。

川合君、遠藤君も出席していた。川合君には「あんたに会いに来たんだよ」と話しかけた。子どもの頃、川合君の家に行き、表から「スミオちゃん、遊びましょ」と声をかけたものだ。「また、後で」と応えたことがあった。その時は遠藤君も一緒だった。「佐々木が来ているんだろ」と話した。

佐々木さんは同級生、可愛いくて気のいい女の子だった。私が運動場で汚れた足を洗った時の親切を憶えている。洗い場から廊下まで少し離れていたが、彼女は廊下まで私を背負って行ったことがあった。

それから8年後——静岡高校の転校試験を受けるため大分から静岡に到着した晩、私は川合君の家を訪ねた。同居していた川合君の叔母が出て来て「まあ、タダオちゃん!」と驚いた。「お義姉さん」と川合君の母親を呼んだが、静岡高校の音楽教師だった母親は私を憶えていなかった。

川合君は留守だったので住所を書いて叔母に渡した。翌日の

午前、川合君がやって来た。2人で浅間神社の境内で話し込んだ。「佐々木はどうした？」と尋ね、「日本脳炎にかかって死んじゃった」と聞き、何とも切なかった。

同期会では2人が講演した。小柳津君が「私の海外トレッキング」と題し、オーストリアを自転車で旅した話をした。サイクリングロードがあり、道に迷うことはないそうだ。1人で海外の山に登ったり、サイクリングをしたりするのが趣味と言い、75歳になった今もまだ続けるつもりだという。プロジェクトターに映ったアルプスの風景やザルツブルグにあるモーツアルトの生家なども楽しく見ながらお話を聞いた。

続いて木内君(旧姓・増田)。彼は元バスケット選手。オリンピックのローマ、東京各大会で代表選手となり、最近まで日本バスケット協会専務理事だった。演題が「オリンピックを楽しむ」。メダル競争にこだわらず最高の技を楽しんでもらいたいという内容で共感した。

宴たけなわとなると、城之内君が挨拶に来た。私の毎朝の一文は、柳澤君が彼の友人、知人に転送しており、それで城之内君も読んでいる。「毎日、楽し

く読んでいます」と言っていた。だき嬉しくなった。「これから直接お送りしましょう」と応えてメールアドレスを聞いた。壇上では遠藤君が座り込んで真向法体操を実演して見せていた。遠藤らしいな、と思った。彼は東大法学部を出て旧自治省の次官になったほどの秀才だったが、ひょうきんな一面がある。

子どもの頃は野球が上手かった。遠藤君が投手、捕手は後に藤田監督当時の巨人軍のコーチとなった滝安治君(故人)だった。遠藤君は野球だけではなく、鉄棒も上手かった。大人になるとゴルフ上手でまさに文武両道に優れた男だが、親しかった私のことを憶えていなかったように何かが欠けている。

小学校の校庭に胡坐をかいて座り込み、遠藤君と掛け合い漫才のようなことをしたことがあった。静岡空襲の思い出話が出た。稲川という町で焼け出されたが、彼も同じ町に住んでいたことがわかった。それで空襲の翌朝、防空壕で焼死した女の子のことを話したら彼も知っていた。

川合君、遠藤君と遊んだのは10歳の頃だ。あれから65年——同期会で会うのも感慨深い。

当日は幹事がクラス別出・欠状況を一覧表にしてまとめている。

た。欠席理由に注目した。「常勤・非常勤その他の仕事」が11人、「介護」が3人、「病気・体調不良」が27人、「その他」が61人、「記載なし」が32人だった。278通の案内を出して75通は返信なし、208通の返信があったものの、出席者は69人だった。

そして、幹事の「2年生を卒業した越村君(元東急電鉄社長)」がまだ東急の取締役(相談役)、内閣府の仕事もして多忙で出席できないが、いずれは出たいと言っている」という発言に耳を立てた。「そうだったのか」と得心した。私が大分上野丘高校2年生の2月に父が静岡に転勤になった。静岡高校には空席がないというので大分に残り下宿せざるをえなかった。ところが、3月下旬になると「静岡高校で転校生が出たので席が一つ空いた。転校試験を受けに来い」と父から連絡が来た。その転校生が越村氏だったのだ。もし越村氏が転校しなければ私は静岡高校に縁がなかったということになる。越村氏に面識はないが、お会いすることがあれば因縁話をしたいものだ。



横顔は村松友視(直木賞作家) 君

私の夢

64期 近藤 博之

私のブラジルでの移民人生、今年でちょうど60年、年齢も85歳となり、現地で独り暮らしに、皆さまの気遣いを思い、また日本に住んでいる娘の要請もあり、この5月、帰国いたしました。

この移民人生の始まったのは、戦後10年経っていた頃。当時の日本はいまだ復興には程遠い道のりにあり、食糧事情等も悪く、国は海外移住を勧めていました。私の場合、人生に対して、「うつ勃」たる考えをもつ年頃

でして、ある日、たまたま母校早稲田大学の図書館で、大隈侯の誌された本に接し、その中の一句「若者は海外に雄飛せよ」



1956年7月11日 横浜港出発
同年9月9日 ブラジル国サントス港着

という言葉に出会い、自分のこれからの人生、海外に生きる生き方もあるのだと教えられ、前途に希望を持ち、始めたのです。人生における縁というものは不思議なものです。それから間もなく私は大学を卒業、移民人生の道を歩くようになるのです。1956年、7月、横浜港を出立する私を見送りに来られた西野入老教授（この方は大隈公の愛弟子といわれていました）が、「近藤君、彼の地に渡ったら新しい日本をつくるつもりで頑張ってくれ給え」と言われた言葉が、昨日のこのように、今思いだされます。

ブラジル到着後の詳細は、本日は記しませんが、私が47歳の時、妻を亡くしましたのが、一つの転機でした。

私が心機一転、着きましたところは、ブラジルの南部、サンタカタリーナ州の「ラーモス移住地」というところ。その移住地に着いて知ったのですが、そこは私が日本出発前、お世話になった移住振興会（今のJICA）におられた、早稲田大の先輩、峰村さんがブラジルに来られ、計画された移住地だということを知り、「縁の糸」のつながりに驚いたのです。

その土地はブラジルでは珍しく、四季のあるところで、気候は温暖で、私の故郷、静岡を想わせるものがあり、これも縁の糸のつながりではなかったかと思っております。

この州が、その気候だけでなく、環境、風土がブラジルらしく、丘陵あり、川あり、深谷ありの起伏のある土地でしたので、このようなところに欧州移民が好んで彼らの町を築き、移り住んだことで、他州とは違う雰囲気を持った州になりつつあることがうかがえます。

このラーモス移住地は、今50年の歴史を刻んでおります。その間に先住の移住者たちの手によって、母国日本より数々の木・草・花が移植され、春は桜、秋は紅葉、冬は数々の落葉樹が多様な景色を広げています。

わたしがその地に住み着いて



考えましたことは、自然環境が、その地に住む人間の心を変えていくのではないかということ。日本的な自然環境の中でこそ日本の心を持った人間が育ち、そこに日本文化が生まれ、育まれていくのではないのでしょうか。そして近頃、ここに茶畑をつくろうという案が浮上し、静岡生まれの私の夢は大きく膨らんできたようです。

最後になりましたが、中国の古典、葉根譚の最後の章に、この世の人生は縁のつながりであり、その縁の浮き袋につかまり、世を渡って行きなさい、と記されております。

私はこれからの余生、この大きな夢を実現させる望みを持って、「縁の浮き袋」にぶら下がり、祖父の遺言「世のため人のために」つくしたいと思えます。妄言多謝。

ブラジル移民帰国者が60年ぶり参加

64期 佐野 旭

64期関東同窓会が7月14日、昨年と同じ「東天紅」で開催され、今や準会員となった69期松島玲子姫を含め13人が集まった。

開会冒頭、世話人代表の野澤正憲君から『飛鳥II』による世界一周グランドクルーズ（6月5日～7月8日、34日間）乗船のために、開催が恒例より1週間遅れとなったこと、乗船中は竜宮城の気分を十二分に堪能したことなどの土産話が披露された（浦島さんと違って、竜





宮城から帰って若返ったようです。

また、今年は60年ぶりにブラジル移民生活から帰国した近藤博之君が参加、現地での生活のほか、2人のお孫さんへの期待、そして彼が最後まで生活していた「ラーモス移住地」へ日本文化導入のため、余生を捧げるとの決意表明があった。

八十も半ばを過ぎ、それぞれ何処かに故障を抱えつつも友と大いに語り、笑い、飲み、そしてみんなから元気をもらい、再会を約して家路についた。

〈出席者氏名〉

岩本吉雄、遠藤栄、栗田行雄、近藤博之、杉本哲、塚本光彦、永田進一、長島健、野澤正憲、村上岳代二、吉井駿亮、松島玲子

神宮球場に静高ファン1万人、 気迫で早実を圧倒―センバツに期待！

静高野球部は秋季東海大会で優勝し、11月の明治神宮大会に2年ぶりに出場。12日(土)の早稲田実業(東京代表)戦では、静高の応援に静高ファンが関東や静岡などから朝早くから駆けつけました。一塁側内野席は満員となり、その数ざっと1万人。早実を上回る圧倒的な応援ぶりでした。

静高ナインの純白のユニフォームは神宮の芝生に美しく映え、若々しく躍動。激戦地区を勝ち上がってきた大会出場校で唯一の公立高校だったためか、「静岡県立静岡高等学校」との紹介アナウンスに大観衆がどよめきました。



安打数で早実を上回ったものの5対3で惜敗しましたが、野球部選手の奮闘とファンの大応援は出場確実な「春のセンバツ」や「夏の大会」でも発揮されることでしょう。

試合終了後は各期やクラブごとに「残念会」が各所で開かれ、旧交を温めていました。

(岳東健児)

2017年度静中・静高関東同窓会・懇親会

7月7日(金)に開催します。

午後6時より日本記者クラブ(例年と同じ会場です)多くの同窓生の皆さま、是非ご出席ください。詳しくは次号会報(6月5日号)やホームページでお知らせします。

(幹事期95期)

世代を超えた同窓の絆 奮って参加を!!

1月20日に第16回異業種交流会

静中・静高関東同窓会の異業種交流会は、2017年1月20日(金)に第16回目を開催します。毎回世代を超えて多くの方々にご参加いただいております。楽しく有意義なひと時を共有しましょう。多くの方々にご参加いただいております。ツイッターでも発信されています。(静中・静高関東同窓会異業種交流会)@shizukoukantan)

なお、静中・静高卒業生の皆様のほかに、「友呼び」といたしまして、同窓生の同伴を前提に、ご家族をはじめとする卒業生以外の方の参加をご依頼し、より有意義な会にして参りたいと思います。

先輩・後輩・お客様等にご一声おかけ頂き、ご参加いただきたいと思います。さらに交流の輪を広げていきましょう。

日時 2017年1月20日(金) 午後6時30分〜8時30分

会場 日本プレスセンタービル 日本記者クラブ9階大会議室

会費 5千円 家族・現役学生3千円

ファーストスピーチは、東海大学情報通信学部組込ソフトウェア工学科教授の清水尚彦さん(95期)にお願いしております。ご参加は下記にご連絡ください。

Eメール ksamatsu-rep@wine.ocn.ne.jp

もしくはFAX 03-3257-9820

(静中・静高関東同窓会事務局)

なお、前回10月21日の第15回異業種交流会では、約20人が参加。79期の一般社団法人海洋会会長・山本勝さん(79期)が、大型商船の船長としての長いご経験やタンカー、クルーズ船など海運業界を取り巻く興味深いお話をしてくださいました。

異業種交流会事務局

笠松 一久(89期)

青山 亮介(119期)



13年4月の第1回異業種交流会

『冬の総会』幹事会を2月17日に開催

「センバツ甲子園」応援イベントも！
「古書コミ」も行います

静中・静高関東同窓会の各期幹事会を開催します。『冬の総会』に位置づけられる会合で、楽しく有意義な会です。会の名称にかかわらず、幹事さんだけでなく、多くの同窓生のご参加をお願ひします。各期ごとに誘ひ合せてください。

春の選抜甲子園大会出場が確実視される静高野球部を応援するため、校歌、追遥歌唱など特別イベントも行います。恒例となった「古書コミ」も併せて実施します。

日時 2017年2月17日(金) 午後6時30分～8時30分

会場 日本プレスセンタービル9階会場

会費 5千円

編集後記

▼16年7月8日の総会・懇親会に230人も参加。本場に「日比谷が静岡に」になりました。講演してくださった2人の建設的な提言を静岡の行政、経済界そして在住の方々が参考にしたいだけだと思います。幹事期94期の皆さんありがとうございます。来年の総会は7月7日(金)。95期の皆さんの準備が進行しています。

▼「古書コミ」特集に寄せていただいた声も心弾むものばかりでした。母校と同窓会の絆が「本」を通じて固く結ばれました。贈呈した図書カードで購入していただいた書物のリスト

(6頁)を見ますと、静高生の読書水準の高さが分かります。

購入図書についてご連絡いただいた同窓会本部事務局長の三浦俊一先生、図書館の担当者に大変お世話になりました。

▼今号にも、関東会報ならではの味わい深いエッセーが多く寄せられました。いずれも豊富なご体験に基づいた面白い内容でした。

▼静高野球部は神宮大会で早実に惜敗しましたが、センバツ大会出場が確実視されています。

2月17日の「冬の総会」各期幹事会は2年前と同様、「壮行」イベント会となりますので、誘ひ合せてご参加ください。(八牧)

関東同窓会費納入のお願い

お願い

関東同窓会は会員の会費(年間3千円)で運営されております。同窓会会費の集まりは多いとは言えませんが、同窓生、同期生に声を掛け合い、ご協力をお願いいたします。同封されている郵便局振込用紙をご使用ください。

幼児教育に新しい風を



代表取締役 久野泰可 (83期) 取締役 久野淑子 (83期)

本部 東京都渋谷区恵比寿西1-20-6 K&S恵比寿ビル7F
TEL 03-3463-3815

Lighting For Your Safety

Koito

<http://www.koito.co.jp>

安全を光に託して

人とクルマの安全は私たちの願いです。
グローバルサプライヤー 小糸製作所

【本社】東京都港区高輪四丁目8番3号 TEL:03-3443-7111
【工場】日本、USA、UK、チェコ、タイ、インド、中国、メキシコ 他
小糸静高会 会長 大嶽隆司(74期)

鈴 与 株 式 会 社

代表取締役会長 鈴木 与 平 (76期)

代表取締役社長 鈴木 健一郎 (110期)

〒424-8703 静岡市清水区入船町11-1

TEL 054 (354) 3015 (秘書室)

京浜支店 〒140-0013 東京都品川区南大井6-25-3

TEL 03 (6404) 2100

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役会長 岩井平一郎 (57期)

本 社 〒422-8004 静岡市駿河区国吉田3丁目1番1号

TEL 054 (262) 1111(代)

東京支社 〒104-0031 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F

TEL 03 (3272) 4651 (代)

建築・不動産活用、アート活動などのご相談はどうぞ

ArchitectS Office & Gallery

一級建築士 石川雅英 (94期)

若いクリエイターの支援活動をしています

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町 16-16

T 03 - 5 8 4 7 - 7 7 8 5

F 03 - 5 8 4 7 - 7 7 8 8

architectsoffice@cotton.ocn.ne.jp

www.rvstone.com

お茶の心を伝える

愛 国 製 茶 (株)

代表取締役会長 馬場 泰男 (64期)

本 社

東京都新宿区西早稲田3-7-9 TEL 03-3207-1611(代表)

高田馬場店

東京都新宿区高田馬場4-12-7 TEL 03-3363-6611(代表)

同窓会で人の輪を!!

野 方 重 人 法 律 事 務 所

弁護士 野 方 重 人 (77期)

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3

藪下ビル6F

(TEL) 03 (3251) 2348

(FAX) 03 (3257) 0820

24時間! ニュースを通じて「世界平和」に貢献する

Record China

日本最大の中華圏情報サイト(日本語)

Record Japan

中華圏最大の日本情報サイト(中国語)

代表取締役社長・主筆 八 牧 浩 行 (82期)

本社 東京都港区新橋2-20-15 新橋駅前ビル1号館7F

TEL 03-3573-7501(代) FAX 03-3573-7503

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

鳥 巢 修 税 理 士 事 務 所

税理士 鳥 巢 修 (89期)

OSAMU TOSU

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17

TEL 03(3396)3858 FAX 03(3396)3848

E-mail: tosu@mtj.biglobe.ne.jp

* 昼 2 時より夜11時まで診療 *

医) 名泉会タカラ歯科診療所

代 表 ^{ワラ シナ アキ オ} 藁 科 名 雄 (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩 5 分

TEL 0120-376-480

FAX 03-3710-8847

〒153-0051 目黒区上目黒2-18-13

みんなでわいわいガヤガヤと

ブックカフェ 二十世紀

コーヒーと軽食、夜はワイン他

貸切パーティー承ります

鈴 木 宏 (91期)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5-4 2F

TEL 03-5213-4853

古本売買 出張買い入れ ご相談

二十世紀記憶装置

@ワンダー

鈴 木 宏 (91期)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5-4

TEL 03-3238-7415

フリーダイヤル 0120-154-727